

都市貧困層の職業選択と脆弱性 —タイのウェイストピッカーを事例として—

キーワード 労働移住、インフォーマルセクター、脆弱性、ウェイストピッカー、タイ

1. 既往研究と問題設定

出稼ぎ労働者に代表される労働移住は国内外を問わず多様であるが、それにかかわる伝統的な理論はおもに農村から都市という文脈において発展してきた。多くの理論は農村と都市に存在する賃金格差によって移住者の意思決定を説明する。また、同郷や血縁などの社会的なネットワークによる労働移住にも、都市の高収入が前提として置かれてきた。

ところが本研究の調査対象地であるタイでは、農村から都市への移住は労働移住全体の二割に満たない一方で、都市から賃金率の低い農村への移住は四割近くを占める (Lucas 1999)。さらに、都市には参入障壁の低い生業の一つであるウェイストピッキングがある。廃棄物を扱う伝統的に周縁化された社会集団がないこと、また健康被害が顕著でないことから、タイにおいてウェイストピッカーとして働く抵抗感は小さいといえる。では、なぜ都市への移住者は農業の二倍近い所得を得ることのできるウェイストピッキングを選択せずに、帰農することになったのであろうか。

2. 分析のアプローチと研究目的

本研究では帰農者を直接捉えるのではなく、ウェイストピッキングに付随する問題点からそれが避けられてきた要因を明らかにしようと試みる。その際に分析視角として用いるのは、貧困層の優先的な価値基準

として指摘されている脆弱性の概念である。つまり、「都市貧困層は所得よりもむしろ、その不安定性やそれへの対応能力の幅といった脆弱性によって職業選択を行っており、ウェイストピッカーはその仕事に付随する脆弱性がために避けられてきた」とするのが本研究の仮説である。したがって、ウェイストピッキングの避けられてきた理由を実態から探り、職業選択の価値基準を明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究結果

3-1. ウェイストピッカーと脆弱性

現地調査を行ったのはバンコク南西に位置する Nong Khaem 中間処理施設に隣接したコミュニティで、住民の多くは廃棄物関連の職業に従事している。Nong Khaem におけるウェイストピッカー37人の平均月収は 6,483B (筆者アンケート 2006) であり、農業従事者の平均月収 3,028B (TDRI 2005) の二倍以上におよぶ。

他方でウェイストピッキングにはトラクターと隣接した作業環境や不安定な収入といった定常的な脅威と、政府や労働移民との対立、再生資源価格の下落といった突発的な脅威とが付随している。ウェイストピ

1 本研究において脆弱であるとは、「脅威に直面したときにそれを回避、対処する手段の欠如している状態」である。脅威には飢えや病気、不安定な収入などの日常生活に埋め込まれた「定常的な脅威」と、災害や飢饉、経済危機などの生活の変更を余儀なくされる「突発的な脅威」とがある。

ッカーは売却先との労使関係（パトロン＝クライアント関係）や水平関係での互助によって、不安定な収入などの定常的な脅威に対応することはできる。しかし突発的な脅威は、ウェイストピッカーにとって対処することの困難な要因によって引き起こされることが多い。

3-2. 職業選択と脆弱性

現在の倍以上にもおよぶ収入を得ることのできた10年ほど前のNong Khaemには、4,000人もウェイストピッカーが存在していた。しかし、政府のトラクターが中間処理施設内に入り廃棄物の管理を厳格化するにつれてウェイストピッカーの収入は低下し（ G ）、大部分のものは帰農するか他の仕事に就くことになった。

ところが、ウェイストピッカーの収入は現在も依然として農業より高く、不安定な収入を補うには十分である。したがって帰農者にとって問題となったのは所得の低下自体ではなく、パトロン＝クライアント関係や水平関係での互助では対処することのできない突発的な脅威の存在であった。一方で農村においては、伝統的に築かれてきたパトロン＝クライアント関係や村という

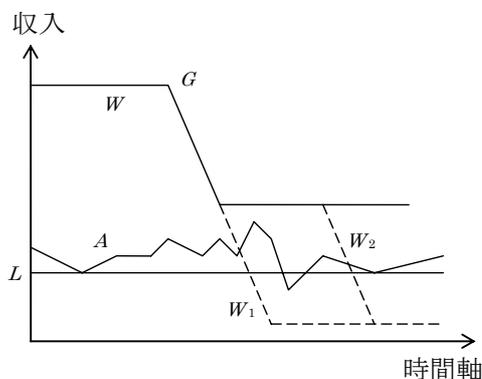


図 WP と農業の収入変動にみる脆弱性の概念図
※ W はWP、 A は農業の収入、 L は最低生存賃金。
出典) 筆者作成

組織によって、最低限の生活は保障される可能性が高い。換言するなら、帰農者は将来的に収入が激減もしくは消滅する（ W_1 、 W_2 ）恐れのあるウェイストピッキングよりも、安定した低い賃金率の農業を選択したともいえよう。

4. 結論

賃金格差による労働移住論とは合致しないタイの事例から明らかになったのは、労働移住と職業選択は必ずしも一つの過程ではなく、職業選択のなされた結果として労働移住が生じるということである。つまり、伝統的な労働移住論に支配的であった賃金格差は職業選択を説明する一つの価値基準でしかなく、移住者は高賃金を求めて移住することが多かったにすぎないのである。

タイでは所得以外の価値基準によって職業選択がなされ、それを受けて労働移住が生じていた。本研究の分析視角であった脆弱性は、所得と同様に職業選択における価値基準の一つである。とりわけ、将来的に収入が激減、消滅するような突発的な脅威への脆弱性は、都市貧困層にとって切迫した問題であった。しかし、都市貧困層の持つ職業選択の価値基準は所得や脆弱性に限定されるわけではない。土地や経済状況、文化などに応じて様々に形作られる価値基準は、どのような一般性を持つのであろうか。

引用文献・HP

- (1) Lucas, R. E. B. 1999. "International Migration and Urbanization: Recent Contribution and New Evidence," *Background Paper for the World Development Report 1999*, WB
- (2) Thailand Development Research Institute: <http://www.info.tdri.or.th/>, accessed in Dec. 2006.